



一般社団法人 小笠原ホエールウォッチング協会 (OWA)

## 「鯨と船舶の衝突を防ぐために」

今年の3月と4月に小笠原海域で確認された船とザトウクジラの衝突(以下:シップストライク)。今後も船舶を所有・操船する誰にでも起こり得る問題です。これを防ぐためにはどうしたらいいのでしょうか? OWAでは解決方法を探るべく様々な事例や取組を調べています。今回は小笠原と同じく、冬から春にかけてザトウクジラが来遊するハワイでの取組の例を紹介しします。

観光地としても有名なオアフ島の南東部に、マリンアクティビティがさかんなマウナルア湾ビーチパークという場所があります。このポートランプ(船を下ろすスロープのある小さな港)には、シップストライクへの注意を喚起する看板が設置されています。看板には、衝突に注意する時期や操船時の注意事項(前方注意、舵から手を離さない、航行速度を落とす)が書かれています。

同じくハワイ諸島のマウイ島では、昨年4月に海生哺乳類の保護と管理についての会議(OMMPA)が開催されました。この時の資料の一つにシップストライク関連のステッカーがありました。ステッカーにはマウナルア湾の看板と同様に各種注意事項(時期、接近距離・航行速度・噴気に注意といった操船時の注意事項)やシップストライクが起こった際の連絡先(NOAA:米国海洋大気局)が記されています。

看板の設置、ステッカーの作成・配布だけでシップストライクを防止することはできません。しかし、シップストライクへの注意を喚起する有効なツールの一つには成り得るかもしれません。

今後も引き続き、他の事例や取組を調べつつ小笠原での解決方法を模索していきたいと思ひます。



シップストライクへの注意の看板やステッカー



## 「ほねほねウォッチング」

現在、東京・上野にある国立科学博物館では、「大哺乳類展～海のなかまたち～」が開催されており、大変賑わっているそうです。シロナガスクジラの全身複製骨格やマッコウクジラの頭骨、その他にも約70種の高棲哺乳類の標本が数多く展示されています。今回の開催にあたり、OWAもマッコウクジラの鳴き声を貸し出しています。

また東京・品川にある東京海洋大学の鯨ギャラリーには世界でも珍しいセミクジラとコククジラの全身骨格、ツチクジラの頭骨が展示してあり、誰でも見学することが出来ます。特にコククジラは鯨類の中でも貴重種で、絶滅危惧種に指定されており、全身骨格は今年の4月にお披露目されたばかりです。このコククジラは2005年7月に宮城県の新潟網に親子で混獲されたもので、詳細な計測、標本採集を行った後、全身骨格にしたそうです。母親は品川、子どもは宮城県石巻市にある「おしかホエールランド」に展示されています。博物館や大学が所有している骨格は教育・研究のために有効に活用されています。

東京海洋大学にある鯨ギャラリー  
写っているのはセミクジラの全身骨格

OWAでもマダライルカやカズハゴンドウ、アカボウクジラ科鯨類の骨格標本を所有しています。小笠原中学校での総合学習やIWOの勉強会に使われていますが、博物館のように常に展示しているわけではありません。もちろん、展示するスペースなどの問題などがありますが、できるだけOWAに訪れる人の目に触れる機会を増やそうとその方法を模索中です。

普段、海で泳ぐ姿しか見ていませんが、たまには彼らの骨格標本をじっくり眺めてみるのはいかがでしょうか?